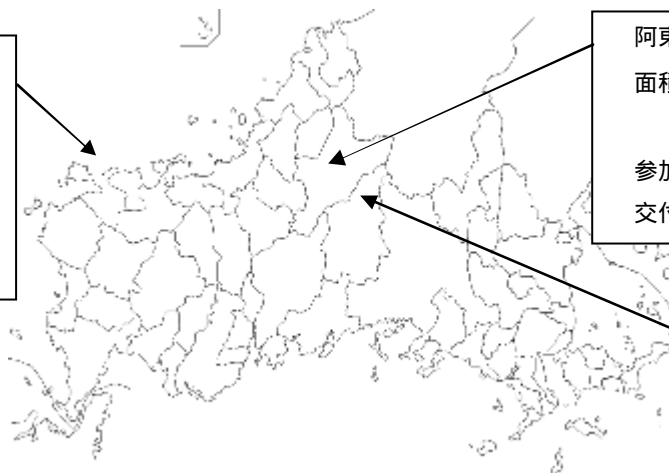


# 集落協定 かわら版 (第8号)

(平成16年3月18日 山口県農村振興課)

油谷町向津具 中ノ森協定  
面積 田/急傾斜 38.6ha  
田/緩傾斜 2.7ha  
畑/急傾斜 0.7ha  
参加者 30人  
交付金 842万円



阿東町生雲 本郷協定  
面積 田/急傾斜 8.1ha  
田/緩傾斜 21.7ha  
参加者 21人  
交付金 346万円

阿東町地福 葉ツク協定  
面積 田/急傾斜 2.9ha  
田/緩傾斜 35.6ha  
参加者 26人・組織  
交付金 246万円

## 若者会の力で地域を活性化

・・・阿東町生雲(いくも)  
本郷(ほんごう)協定・・・

阿東町生雲の本郷協定、渡辺俊行さん(65)と若者会の皆さんを訪ねました。

集落協定の状況を教えてください。

- 「対象農地30ha、交付金350万円、3集落21人からなる協定です。一戸平均で1.4ha参加しています。比較的規模が大きいですね。」「それから、町の方針でもありますが、国の制度の30haの他にゼロ円農地7haも一緒にして集落全体で協定を結んでいます。」

ゼロ円農地というのは何ですか？

- 「国の制度の対象にならない平坦な農地のことです。町の方針で、傾斜農地と平坦農地を一体的に守っていくようにしているんです。」

平坦農地を協定に追加した場合は、追加面積10a当たり1000円(田)が町から集落に交付されるそうです。



(本郷地区の風景)

さて、協定締結後、変わったことはありますか。

- 「協定締結までは、水路管理や草刈りなどは各自の守備範囲だけといった傾向がありましたが、今は日当を出すようにして集落全員で分担して効率的に行うようにしました。圃場整備が平成10年度に完了し用排水路が別々になって管理箇所が増えていたので、集落全体で取組めたのはよかったですね。それに景観も良くなりましたし。」

今日は「若者会」の皆さんにも集まっています。どんな組織ですか。

- 「若者会は子ども会の活動を後押しした

いとのおいから、昭和62年頃に20～30歳代の若者が集まって結成しました。少し歳をとりましたが、今は地域に目を向けた活動を心掛けています。」

「若者会」ではどんな活動をされていますか。

- 「主な活動は、子供から年輩者までみんなが参加できる行事として、盆踊りやグラウンドゴルフがあります。13年には地域づくりの先進地視察もしました。農業面では、若者会が率先して水路農道管理など共同取組活動の担い手として頑張っていますよ。最近では狂言にも取り組んでいて、『ルネッサながと』に野村萬斎を見に行くほど熱を入れていて、生雲地区のふれあいフェスタでは9回公演しています。」

- 「それから地元で鳥インフルエンザが発生したので、終息後に慰霊祭も行いましたよ。」

なるほど。若者会は、素晴らしい行動力の持ち主が多いようですね。



(協定代表の渡辺さん(前列右)と若者会メンバー)

集落の今後の取組はいかがですか。

- 「各戸が営農機械を一式持っているのですが、機械の共同利用など集落営農に向けた取組が進みにくいのですが、高齢化は避けて通れません。先日も町の協定連絡会が企画し

た先進地視察に参加したんですが、徐々にですが集落営農への取組を検討していくことも必要と考えています。」

若者会のメンバーはそろそろ壮年期に差し掛かっていますが、地域に欠かせない存在になっているようです。今後の活躍が期待されます。(田中)

### 営農組織活動・売れる米作りにチャレンジ

・・・阿東町地福(じふく) 葉ッ久(はっく)協定・・・

阿東町地福の葉ッ久協定、山本恵奎(やすふみ)さん(62)と協定の皆さんにお話を聞きました。

協定の締結はスムーズに行きましたか。

- 「役場から自治会に話があったので委員を選出して内容を検討しました。話は比較的早くまとまりましたよ。水路、農道の管理は定期的に共同で行うようになりました。」

協定をきっかけにして活動が活発になったと聞きましたが。

- 「確かに活発になってきました。地元を見ると4～5年後には放棄地が出始め、将来は、多くの農家が耕作を続けることが難しくなってくるだろうとの思いがありました。農業が継続できるようなシステムが必要だと皆が感じ始めていたんです。」

営農組合を作られたとか。

- 「今、営農組合の規約を考えているところです。一足早く平成14年には共同の機械(プロドキャスター、トラクター)を購入し、昨年末(12月)には倉庫が完成しました。」

- 「もちろん交付金を活用しています。初

めは個人配分を50%にしていたのですが、平成15年からは全額共同に変更しました。」

- 「今は動き始めたばかりで、地盤づくりの段階ですね。月1回以上の役員会を開催して色々と検討していますよ。」



(購入したブロードキャスター(右奥)とトラクター)  
米作りにも工夫があるとか。

- 「平成16年からは、米は過去の販売状況をもとにして生産数量が配分されるようになりました。農家も販売のことを考えて売れる米作りをする必要があります。ちょうど今、集落内で加工に向けた米の試作をしてみないかと提案しているところなんです。」

- 「圃場整備の工事費の支払いが平成14年から始まっています。少しでも経済的にプラスになるように、そして農業に魅力を持てるようにしたいですね。」



(新築の倉庫の前で(中央が山本さん))

- 「幸い集落内に米作りの上手な先生がいますので、いろいろと研究をしていきたいですね。とにかくチャレンジしないと何も始まらないと思うんです。」

営農組織活動、販売を考えた売れる米づくりへのチャレンジなど、新たな活動が動き始めています。(西村)

### イノシシ対策と牛の放牧に取り組む

・・・油谷町向津具(むかつく)  
中ノ森(なかのもり)協定・・・

油谷町向津具、中ノ森協定の代表者、中村一志(ひとし)さん(67)に話を聞きました。

協定締結当時のことを教えていただけますか。

- 「中ノ森には3つの班があるので各班1人と自治会長、農事組合長の5人で役員をすることになりました。5年間は長いという意見もありましたが、皆賛成の方向で話が進みました。」



(中村さん)

どんな活動をされていますか。

- 「水路・農道の管理やイノシシ対策などをしています。」

- 「年4回の草刈りの他に、ここは海のそ



ばで風が強いので防風林の剪定もしていますよ。」

農地が大変きれいですね。

- 「みんな熱心に管理していますからね。最近では2月に草刈りをしました。ここでは刈った草や畑の野菜くずは、全部牛のエサにしていますから、なおのこときれいなんですよ。」

- 「牛を飼う農家が3戸ありますが、刈った草はまとめておいて、畜産農家に連絡して取りに来てもらうようにしています。だから捨てるものはありません。」

最近イノシシが出始めたそうですね。

- 「4~5年前から出るようになってきました。そこで交付金を活用して捕獲柵を3年前から2箇所に設置したんです。なかなか獲れなかったんですが、2月に初めて獲れましたよ。親子で4頭。」



(イノシシの捕獲柵)

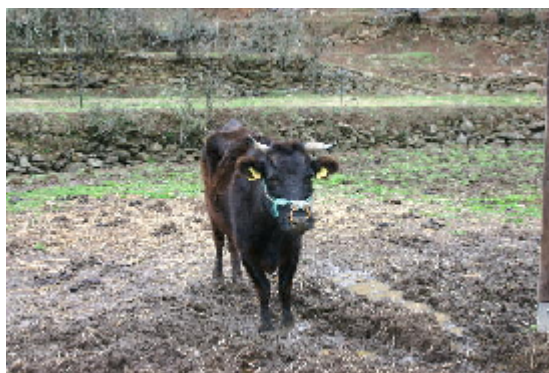
山口型放牧(水田放牧)をされているとか。

- 「畜産農家がいるからね。道に近くて放棄地になっているところを中心に、放牧をしています。電気牧柵を設置する場所の草刈りはみんなでやります。牛が草を食べてきれいになったら協定に入れるんです。」

それにしてもこの地区は傾斜が急なんですね。

- 「私は、4.8ha100枚以上の田を管理

しています。田も狭いけど、実は田の中よりも農道を農機で移動の方が大変で技術がいるんです。狭いし坂道ですから、機械がひっくり返るんです。2人1組でバランスを取りながら移動する場所も多いんですよ。」



(農地管理をしてくれる牛(中村さんの牛))  
将来の農地管理はどうしますか。

- 「実は、管理ができなくなった農家の田を、同じ水掛かりの人が作っているところがあります。しばらくはそんな対応も可能ですが、地域全体を見渡せば、いずれできなくなる時が来るかもしれません。集落で話し合いをしましたが、牛の放牧を増やして管理していくようになると思っています。」

イノシシ対策、牛を活用した農地管理。  
着実な活動が進んでいる協定ですね。(西村)

~~~~ 編集後記 ~~~~

制度も残り1年となりました。あなたの地域では、新しい活動が始まりましたか。これまでの活動を振り返って、最後の1年の新たな挑戦に期待しています。(西村)